



佐世保市立黒島小（月川英昭校長）の児童が19日、同校と交流を続けている長崎短大（同市椎木町）を訪ね、島を盛り上げるためのアイデアを発表した。

総合学習の一環。児童は昨年4月から住民の話を聞いた。児童同士で話し合いをしながらそれぞれ考えをまとめた。

2、4年生7人のうち3、4年生6人が、同短大国際コミュニケーション学科1年生の前で発表。「黒島の海大作戦」「輝く絶景大作戦」などと題し、展望台に花を植えたり、観光客への釣りざおを貸し出す考えや、海や浜辺を舞台にサバイバルを繰り広げる企画などを提案した。

同短大では、地域に密着した課題解決型実習として、昨年4月から児童との交流や島内見学をしながら、地域活性化策について考える取り組みをしている。（宮本宗幸）